



第27号  
18/1/17  
発行  
ことぶき大学  
事務局  
Tel 39-2318

春



春がやってきた  
小鳥たちは嬉しそうに歌って  
春に挨拶する  
泉はそよ風に合わせて  
優しく囁きながら流れ出す  
やがて空は暗くなり  
稲妻と雷鳴が襲ってくる  
嵐が静まると小鳥たちは再び  
うれしそうに歌いだす  
花ざかりの美しい牧場では  
木々の葉がやさしくざわめき  
羊飼いは忠実な犬を傍らに  
眠っている  
牧歌的なバグパイプの陽気な  
調べに合わせて  
ニンフと羊飼いは踊る  
輝くばかりの装いの春の中に

(ヴィヴァルディ四季「春」の詩)

あけまして

おめでとぅございませす

新春の候、ことぶき大学の皆さま  
におかれましては、ますます「清祥」  
のごとお慶び申し上げます。

この「春」の詩は皆さんご存知の  
ヴィヴァルディの四季「春」の曲に  
謳われている詩で、イタリアソネッ  
トと呼ばれる14行の詩で構成され  
ています。

「アモーレ・マンジャーレ・カン  
ターレ」「愛・食・歌」イタリア人が  
愛する人生観とともにイタリアの小  
さな村の風景を連想ながらこの「春」  
を聴くとさらに明るく華やきます。

暦ではまもなく大寒ですが、厳し  
い冬があるからこそ春が一層待ち遠  
しくなるものです。

さて、新春第一回目のことぶき大  
学は近内学長の新春講話から始まり  
ます。今年も大いに学びましょう。

本日の日程

1月17日(水曜日)

当番 本科二年

「新春講話」「お楽しみ新年会」

9時15分◆朝の集い  
9時30分◆学長講話

富良野市教育委員会  
教育長 近内 栄一様  
10時15分◆校長講話

富良野市立扇山小学校  
校長 室 篤宏様  
12時00分◆昼食会

「三校合同新年お楽しみ会」

14時00分◆散会◆後片付け  
◆富良野校自治会・山  
部校自治会合同会議

14時50分◆バス発予定

※新年度のことぶき大学に向けて、  
二校の自治会合同会議を実施します。  
散会後に第一会議室にて行います。  
バスの出発時刻までには終了する予  
定ですので、「協力ください」。

総合保健センター  
西出さんの講話

さて、来週24日のことぶき大学の  
学習ですが、今回は志向を変え高齢  
者の心身の活力を高めることを中心  
に学習します。多少体を動かします  
ので運動に適した服装で登校くださ  
い。健康寿命をもっと伸ばそう！

次回の日程  
1月24日(水曜日)

当番 本科三年  
◎平成30年度  
ことぶき大学構想

8時45分◆会場準備  
9時00分◆朝の集い  
10時00分◆高齢者の生き方考察  
12時00分◆昼食・休憩  
13時00分◆新年度構想説明  
13時30分◆学年別研究  
15時00分◆自治会役員会

決定!  
卒業式・修了式  
三月十六日(金)

「ことぶき大学の卒業式・修了式  
を優先させたい」という能登市長の  
熱い思いにより日程が決まりました。  
思い出に残る卒業式・修了式に  
しましょう。

☆平成29年度「富良野市ことぶき大  
学三校合同卒業式・修了式」

◎平成30年3月16日(金曜日)  
午前10時30分 大会議室

◎生徒集合及び総練習  
午前9時30分

詳細は次回に連絡します。

ことぶき大学  
新年度構想

本日新年度のことぶき大学に向けて富良野校自治会と山部校自治会との合同会議を開催します。

また、次回24日の午後の時間を利用して新年度構想についての概略を説明したいと思っております。

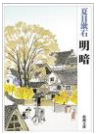
前回お配りしました新年度に向けてのアンケートですが、各学年人数分を事務局に提出ください。

なお、次回の午後には学年別研究の時間を設定しておりますので、卒業式に向け、学年研究のまとめ、卒業文集としての「吾が想い出の記」全員が対象ですので、その作成にも使ってほしいと思います。



「夏目漱石没100年の読み直し」  
最終回

『「吾輩は猫である」何と云っていいか解らなくなるわね、あたしなんか。津田に愛されてゐるんだか、愛されてゐないんだか、自分じゃまるで夢中でゐるんじゃないか』



《 明 暗 》

漱石の遺作。新聞で188回まで連載したところで漱石が倒れ、数日後に亡くなったため、物語が佳境に入ったところで中断した。

結婚して半年の津田とお延、好き同士で一緒にいる、平穩に暮らしていたが、津田が痔の手術のために入院することになった。

すっかり者のお延は、津田の父親が生活費の援助を断ってきたり、少しも動じることはない。しかし、津田の本音がどこにあるのか気になるのは、津田の妹や津田の友人の小林、津田の会社の社長夫人といった外野から妙に意味深い情報が入ってくるからだ。幸せと信じて過ごしていても、心の隅にはいつも不安がある。

漱石作品では珍しく、視点が登場人物の動きによって移動する。妻と昔の恋人の間でふらふらする津田が、結局はどういう結論を出すのか、いろいろ想像してみるのも面白いだろう。

《 漱石から伝わるい 》

「吾輩は猫である」を視聴してから漱石の年譜や家族、そして作品の一部に触れながら、今月末の31日午後、「坊ちゃん」を視聴し、今年度の予定は終了します。

一八六七年に漱石が生まれてから百五十年に当たる年、時代は明治維新大政奉還。日本の作家ランキングでも常に上位に位置し、現代でも年齢層問わず人気が高い漱石です。

時代の流れに翻弄されまいとした漱石の生き方が現代社会にも通じるものがあるのだろう。5男3女の末っ子の漱石、里子から養子への幼少時代、東大卒業のエリートで大学の講師、そして中学校教師して松山中学校へ赴任、誠実に教えることは好きでも、組織や体制を嫌う漱石は教師に馴染めず。鏡子と結婚二男五女の父親となるが五女のひな子が急死、ロンドンに留学するもお金がなく部屋にひきこもる。神経衰弱、胃潰瘍、躁鬱状態に悩む漱石とその家族…

一九一六年大正5年の12月9日、胃潰瘍が再発、49歳の生涯を閉じる。

「吾輩は猫である」「坊ちゃん」漱石の作品としては代表的なものでもありますが、漱石という人物を知る事により人間誰かが経験するであろう人生への悩みに漱石でさえも翻弄されたことが、今でも人気が高い所以なのだろうか…

また機会がありましたら、漱石文学に触れてみたいですね。

心に残ることは

・ 孤立を恐れずに逆風に向かい熱狂や集団思考から遠ざかる

冬の精神が受け継がれたときに初めて次の時代の新しい物語が見えてくるかも知れない

・ いつも仲間を配り集団で思考する生き方からは新しいものは見えない心地よいものの境界を超えて冬の精神を持つ

・ 春が近づく気配を予感しながら希望の季節をただ待ち続けるのではなくあえて寒風に身をさらす「今が困難な時代だからこそ 厳しい冬の精神を持つたなければならない

・ 大切なものごとをただありのまま見るのではなく、それがいかにしてそうなったのかを見ることだ

(エドワード・ウィリアム・サイード)

現役時代にこのサイードの言葉に出会い勇気づけられました。

華やかな「春」で始まるヴィヴァルディの「四季」、 「冬」を聴くことによってさらにこの曲の魅力を感じることができると思います。

お楽しみ忘年会 特集



**奥田係長による津軽三味線!**  
 曲名は「あとほだり」、この意味は津軽の方言で「アンコール」という意味です。自分にプレッシャーをかけることで自分をより高めること…いつも自分は「これでいいのか!」と自問自答することが人生をより豊かにするものなのです。奥田係長に拍手!!!



富良野校本科1年「ダンス 長生きサンバ」

♪まだまだ若いまだ若い♪90なんてまだ若い♪……  
 ビバビバサンバ 長生きサンバ……  
 ノリのいいサンバのリズムは自然に体も動いてしまう。このダンス、とても気に入りました。新年度も積極的に踊りましょう!! サンバサンバ…長生きサンバ……♪♪

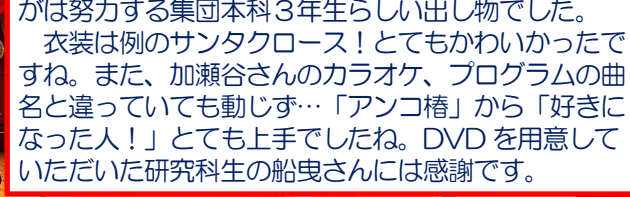
富良野校本科2年「ジェスチャーゲーム」

久しぶりのジェスチャーゲーム、まじめで誠実、控えめの本科2年生…なぜか、その直向きな真面目さが2年生らしいですね。あの喜劇王チャップリンはその超真面目さと直向きさ、そして何よりも心の優しさが、笑い感動を生み出しているのです……



富良野校本科3年「大正琴・カラオケ」

大正琴を弾く菅原さん、連日連夜の猛特訓の成果は見事なものでした。「練習は嘘をつかない!!」さすがは努力する集団本科3年生らしい出し物でした。衣装は例のサンタクローズ!とてもかわいかったですね。また、加瀬谷さんのカラオケ、プログラムの曲名と違っていても動じず…「アンコ樅」から「好きになった人!」とても上手でしたね。DVDを用意していただいた研究科生の船曳さんには感謝です。

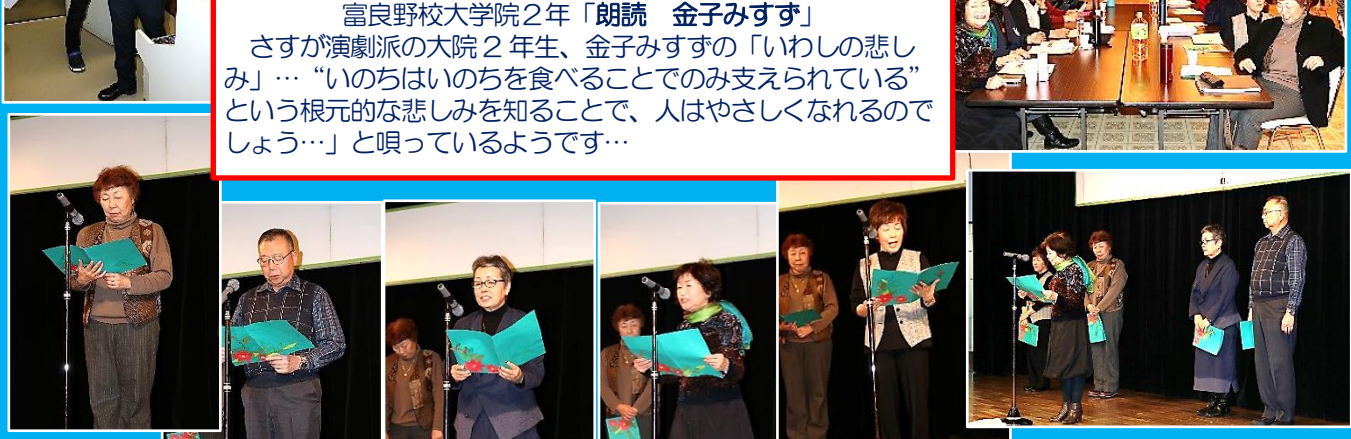




富良野校大学院1年「マジックショー」  
 「オリーブの首飾り」は手品の曲ではないのですが、昭和50年たまたま手品で使われたのがきっかけだったそうです…それにしてもマダム博子とマジシャン四宮は定番となりました。お疲れさまでした。楽しかったです。



富良野校大学院2年「朗読 金子みすず」  
 さすが演劇派の大院2年生、金子みすずの「いわしの悲しみ」…“いのちはいのちを食べることでのみ支えられている”という根元的な悲しみを知ること、人はやさしくなれるのでしょ…と唄っているようです…



富良野校研究科「合唱」  
 研究科生は、「毬藻の歌」と「あざみの歌」の合唱を披露していただきました。アイヌ文化の歴史を語る阿寒の毬藻、そしてあざみの花言葉は「独立」「報復」、そして棘があることから「触れないで」という花言葉もあるそうです。研究科生が選曲した理由は何だったのでしょうか。きっと奥が深〜いのでしょう。私も久しぶりに口ずさみました。研究科生のみなさんありがとうございました。



全員合唱で幕！  
 「富良野の町で」で平成29年は幕を閉じました。11月の文化祭から実践発表会、そしてお楽しみ忘年会…準備を含め熱心に取り組んいた皆さんに敬意を表します。お疲れさまでした。

